

平成 28 年 7 月 4 日

## 京口門だより No. 33

7月初旬は「半夏生」といって、カラスビシャクというドクダミとおなじ仲間の草がはえる時期です。「半夏雨青くらがりの藪椿」(安部安閑子)カラスビシャクの塊茎の「半夏」は、水を除いて嘔吐を治す胃腸の薬として漢方薬にはよく使われます。

これから夏にかけては胃腸を悪くしやすい時節です。胃腸の病気に「過敏性腸症候群」という病気があります。かつては過敏性大腸炎などともよばれていました。大腸・小腸には何ら器質的な病気はないのに、便秘や下痢を繰り返したり、腹痛を起こし、腹が張ってガスがたまりやすく、ゲップやオナラがよく出るといった症状をきたします。下痢ばかりになる人や、便秘になる人、便秘と下痢の交代になる人とタイプが分れます。大腸の造影検査や内視鏡検査でも明確な病的所見が見つからないのが診断の基準になり、ストレスや心理的变化に影響を受けやすい特徴もあります。過敏性腸症候群では腹部不快感あるいは腹痛が、休み休みでも3ヶ月以上続くことが診断の目安になります。かといって栄養不足や体重減少はそれほど強くありません。なかなかやっかいな病気で、それに悩んでおられる方は意外に多く、特に女性に多いのですが、男性にもあります。

現代の医学でもあまり的確な治療法はなく、便秘だからといった下剤を服用すると、反って下痢がひどくなったり、排便異常がさらに悪くなることがあります。また下痢に対して下痢止めを服用すると、便秘がひどくなったり、腹満が増強したりしてたいへん厄介です。

一方、漢方医学では有効な治療法をもっています。過敏性腸症候群の患者さんの病気の特徴をつかんで、例えば下痢をしやすい方なのか、便秘をしやすい方なのか、腹痛が主な症状なのか、あるいは腹満が主で、ゲップが出やすかったり、腹にガスがたまりやすいのか、冷えによって症状が悪くなるのか、女性であれば、月経との関わりがあるのか、などなど、それぞれに適応する漢方薬があります。

ある60歳の男性、1ヶ月前から下痢ないし泥状便が1日に1~3回、左の下腹部が重苦しく不快で、時に痛む。腹部ガスがよくたまり、オナラがよく出る。疲れやすく、食欲もあまりない。とのこと。胃や大腸の検査は異常ありませんでした。ある漢方薬を服用していただき、およそ半年で、腹部ガスも減り、腹の不快感もなくなり、便通は1日1回の普通便となりよくなりました。

このような過敏性腸症候群は漢方では、一種の「疝気症候群」のひとつと考えます。その治療法もいろいろとあります。むろん食事については十分注意をしながら治療しなければなりません。

